

主題

つなげ合うことで共に高め合い、自ら探究する児童の育成
～様々な教科においても～

4-1 図画工作科

「まっくらに住む『ナデール』～耳と手と目で作りだそう～」

＜中学年部会からの提案 ～探究のサイクルをうむために～＞

①教科等横断的(つなげ合い)による高め合い

総合的な学習の時間では、身体の不自由な方(特に視覚障害者)と交流する学習を行っている。ここでは、目の見えない人の生活や気持ちなどを体験したり実際に聞いたり見たりしてきた。目が見えないと、他の感覚が優れ、大切になるという気付きから、感触に重点を置いた『ナデール』を作ることを本題材として設定した。総合的な学習の時間と図画工作で行う学習がつながり、より高め合う単元計画にする。

②見方・感じ方を広げるための「触る」「聞く」「のぞく」鑑賞と対話

ブラックボックスの中にある『ナデール』を「触る」「聞く」「のぞく」鑑賞を行う。作品を作った人は、触り方やのぞき方で気をつけてほしいことや、『ナデール』の特徴や鳴き声について説明をする。作った人と鑑賞する人との対話を通して、造形的なよさや面白さ、つくった人の表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり、考えたりして、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。

③つなげタイムで見えた気付きを、深い学びに促すための発問

つなげタイムでは、個々が作った作品をそれぞれが鑑賞し、感じたことを発言するため、一見共通性がないように感じるが、意見が出尽くした後に、教師による発問「みんなの意見の共通点はなんですか」と問うことで、“いろいろな感覚を使うとより楽しい”“どの作品も、いろんな楽しみ方がある”などの気付きが生まれる。そこから、「気付いたことは、普段の生活や他の学習に生かせることはありますか」と問うことで、総合的な学習の時間や生活場面でのつながりを、児童が気付けるようにする。

○協議会で話したいこと

- ①「触る」「聞く」「のぞく」鑑賞をすることで見方・感じ方が広がっていたか
- ②つなげタイムや教師の発問により、深い学びが生み出され、総合的な学習の時間や生活場面との関連性に子どもが気付いたか